



宮内ノ定額金  
茅壹號

1 2965



414  
A 44  
1

○宮内ノ定額金

第一 英國

シテハリストトハ近今立君立律國ニ於テ國費ノ部分中國君及  
宮内扶助ノ為メニ取除キ國君自カラ自由ニ之ヲ指揮シ國君一身ノ外國  
政ニ関カテサル官吏ニ依テ管理セラル、所ノモノヲ云フナリ○シテハリストノ名  
稱ノ起リシハ近代ノイニシテ其実際ニ舉行サレタルモ亦均シク近代ニ在リ然レ宮  
内ノ費用ヨリ一國ノ會計ヲ分離スルノ最モ緊要ナルハ一朝一夕ノニハ非ラ  
ザルナリ○此分離ハ獨法ヲ明瞭ニシ且ツ國政ノ取締ヲ明ニスルニ付テ其緊  
要ナル一際限ナカリシナリ○獨リ國君ト國家トノ間ノ區分無キ專制ノ國  
ト或ハ國法ト民法トノ區別無キ半開ノ國クニ在テハ分離ノ必要ナルハ知シレ  
ザルナリ

今日ニ至ツテハ殆ト何レノ國クモ國家ノ費用ヨリ之ヲ區別セラレタリ即チ

第一 (シテハリストナル國君ノ場ヲ以テ受取ル定額)

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

第二

日耳曼ニ於テハ「シャルグート」又ハ「カビ子」トシテ以上三ノモノ何レモ私庫ト云フ義ニト唱フル所ノ國君ノ真ノ私有物

上ニ説ク所ノ分離ノ因テ起ル所ノ模様ハ如何ナルカ又何故ニ近世ニ在テ其事ノ

舉行サレタルカハ歴史ニ於テ説明スベキナリ○羅馬帝國ノ創立スルヤ否ヤ「ア

ウグスタス」帝「エイラリウム」公共ノ所有（即チ元老院ノ管下ニ在リシ所ノ公有

物）ト「フスカス」帝領ト云即チ帝王ノ所有物ト唱ヘタル所ノモノヲ創定シタリ

○前ニ述フル所ノ專制政府ニ於テハ「フスカス」ノ歳入ハ絶ヘズ「エイラリウム」ノ費

用ヲ以テ之レニ増加シ巴ニ三百年代ニ於テハ都テ雙方ノ會計ノ區別ハ消滅スルニ

至リタリ○「コンスタンチン」帝ノ此帝國ヲ恢復スルノ始メニ際ツテ直チニ宮

内ノ所領ト國領トノ區別ヲ立テテ「ア」ト圖レリ然シテ「カ」終ニ其功ヲ奏セザリシ

○羅馬帝國ノ滅亡ニ原由シテ日耳曼羅馬ノ各地ニ於テ建設シタル諸

各々土地ノ所有ニ付テ創定シタル地頭タルヲ以テ之ヲ管理スルノ權ヲ掌握シ

タリ○國君ノ廣大ナル領内ヨリ收入スル所ノ歳入ハ宮内ノ著大ナル入費ヲ包

括セリ而メ之レニ比スレバ政府ノ費用ハ却テ僅クナリ○同時代ニ於テハ宮

内ノ吏員タルモノハ一國ノ官吏中ニ在テ最モ高貴ナルモノナリ而メ凡ソ臣下

タルモノハ民法上ニ於テ土地ノ所有主タル其管主ヘ收ムル所ノ僅カノ年貢

外ニ兵役并謀役ニ西羈束セラレタリ○漸次ニ租税ハ管主領内ノ所有物ニ示

足ヲ生シタル片毎ト人民ニ依頼シテ之ヲ徵集スルニ至リタリ○是ノ初メニ

從ツテ穀物ヲ以テ收納シタル諸年貢ハ代價ヲ取極メ金銀ヲ以テ之ヲ納ムル

ニ改メ又國家維持ノ目的ニ付テノ需用（例ヘバ常備兵ノ設置ノ如キ）増加シタル

ヲ以テ絶ヘス山林等ノ土地ヲ賣却スルモ極ホ其増殖スル所ノ需用ヲ充タス

「能ハザリシヲ以テ漸次會計ノ制ヲ變更スルニ至レリ而シテ民法ニ基イシタル

「ドメイン」エゴノミー」土地ノミニ付テ年貢ヲノ代リニ余輩ハ國法ニ歸着シタル

「タキマシヨシ」エゴノミー」土地ニ限ラス一般ニ租税ヲヲ發明セリ○此故ニ一國ノ會

計ヨリ國君ノ家計ヲ分離スルノ必要ナル「最モ緊急トナレリ○此事ハ英國

ニ於テ最モ著明ナリ假令ヒ一國ノ會計ト國君ノ家計トノ實際ノ分離ハ

ステートオブナシス

大陸ノ諸邦ニ後レテ起リシト雖レ「シヴナル」リストノ考案ト其名称ト起リ  
シハ英國ニ於テシタリ○既ニ「ヘンリー」王第五世ノ時ノ後ハ國君即位始メテ  
國政ヲ取リシキニ於テ生涯或ル歳入ヲ捧クルヲ以テ帝トセリ○然レシナガラ  
此歳入ニテハ引込ラザルヲ以テ領地ノ賣却ト所謂「ホルンタレイ、コンツリビエ」ヨ  
ン自由ノ扶助金ト云フ義ニトヲ以テ國君自ラ其身ヲ助ケタリ而シテ「チエーダ」國  
王家系統ノ家ハ特ニ土地ノ消失其極度ニ至リシハ寺領賣却ノ方法ヲ以テ其  
不足ヲ補フタリ「チヤールス」王第二世復位ノ後ハ國王一己ノ方畧ヲ以テ政府ヲ維持  
スルノ成リ難キヲ悟リタルニ付キ議院ヨリ内閣ノ常用歳入（即チ「シヴナル」リスト  
ノ歳入）トシテ年々百載拾万磅ノ金額ヲ前同王エ捧ケ此等金額ノ内ヨリ海  
陸軍兵備ノ入費ニ充ツベキトナセリ（千六百六十年）「ウヤリヤム」王（モ亦同一  
金額ヲ捧ケタリ（千六百八十九年）夫レ此事ヤ既ニ此歳入ノ一半ヲ以テ議院  
ノ管理監督ニ歸セシムルノ階梯ヲ為シモ他ノ一半ハ國王ノ自由管理ニ付ス  
雖レ僅ホ其内ヲ以テ治民政府ノ費用ニ供スル（即チ上文海陸軍ノ費用ニ充ツル）ヲ企テ

タリキ是ニ於テ一種ノ「リスト」（茲ニハ之ヲ庄親目録ト見ル可トス）ヲ下院へ委託セラレタリ故ニ  
此歳入ヲ「シヴナル」リスト（此語甚美民政長目録ト云フ義ニシテ軍事ヲ始メ凡ソ治民ノ事ヲ施行スル者メニ賈ス所ノ入費積リナリ故ニ云爾）ト稱  
スルナリ勿論近今ニ至テハ王家ノ費用ハ全ク治民政府ノ費用ヨリ分離セラレ  
ト雖レ猶ホ「シヴナル」リストナル語ヲ保存スルモノハ驚クベキ考案ノ錯乱ヨリシテ  
遂ニ王家ノ費用ニ於ケル歳入ヲ示メストナレリ）（亦モ其項既ニ一國ノ費用  
ヨリ國君宮内ノ通常費用ヲ分離セシメテ企テタリト雖レ其功ヲ奏セスレテ却  
テ不幸ナル結果ヲ生シタリ○宮内ノ負債大ニ増加シタルヲ以テ王家ハ終ニ其  
領地ヲ奪ケテ之ヲ拋棄シタリ○千八百年代中ニ緊要ナル改革ヲ行ハレ  
タリ何ゾヤ是迄王家ニ付此シタル收入ハ通例議院ヨリ捧ケタル或收入例  
ヘバ（噸稅 船稅ノ噸數ニ依リテ取立ツルノ稅ニシテ 及ヒ港稅等ノ如キモノ）八拾萬磅ヲ  
以テ之ヲ計ヘ「チエーダ」王第二世ノ即位千七百二十七年ニ於テ此金額ヲ捧ケタ  
ル上更ニ王家ノ歳入ヨリ生スル所ノ殘金ヲモ使用スルヲ許ルサレタルノ事是レナ  
リ○千七百十七年ニ於「シヴナル」リストヲ確定シテ九拾万磅トナシタリ然

シ都テノ年貢其外王家世襲ノ所有物ヨリ生スル所ノ金銀ハ之ヲ大藏省  
 一交付シタリシ○然ルニ此時代ニ在ラハ國王ハ「シヴナル」リストノ中ヨリ裁判  
 官。使節其他政府ノ官吏ノ俸給ヲ拂フタリシ○「ウヰリヤム」王第四世在位ノ  
 中ニ右等擔任ノ中多分ヲ節減シテ「シヴナル」リストヲ五拾壹万磅ト定メタリ  
 ○「チヨージ」王第三世ノ代三十九年四十年ノ第ハ十八號ヲ以テ國王ハ國家  
 所有ヨリ區別シタル私有ノ財產ヲ所有シテ妨ケ無キヲ確定シタリ○女王  
 「ウヰクトリア」ノ代第一二年ノ第ニ歸テ以テ「ウヰクトリア」女王ノ在世中  
 ハ宮内ノ收入ハ悉皆混合定額種々ノ租税ヨリ成立シテ政府ノ定額金ニシテ「カ  
 出納其他ハ行政官ノ権内ニ在テ議院ノ許可ヲ得ルニ及バサ  
 出納其他ハ行政官ノ権内ニ在テ議院ノ許可ヲ得ルニ及バサナルモノノ部分タルベク（故ニ議院ニ於テ常ニ之ヲ可  
 否スルヲ無キナリ）然レ「シヴナル」  
 ストハ之ヲ女王ヘ交付スベキヲ確定シタリ○千八百三十八年十二月二十二日王  
 ノ同意一致ヲ得タル此條例ニ依テ女王ハ其家政ト大英國并愛耳蘭土ナル各  
 衆國ノ王タル所ノ榮譽并其威カトヲ維持スルガ為メ二年々皇俸三拾八  
 万五千磅ヲ捧ケラレタリ○前同段ノ憲法ヲ以テ科目ヲ定メ此皇俸遣拂ノ

制限ヲ立テタリ○大藏卿ハ年々王ノ家計ニ於ケル俸給トシテ貳拾三万五千  
 貳百六拾磅ト王ノ私吏ヘノ退職料。恩賞金及ヒ王ヨリ賜ハル所ノ賑濟布施  
 并臨時諸費トシテ壹万三千貳百磅ト引殘シ六万磅ヲ女王陛下ノ  
 着金ヘ納ムルヲ差圖スルナリ○右ノ如ク諸費引去ツテ尚オ使用セザル殘  
 金三万六千三百磅ヲ剩セリ之ヲ以テ宮内ノ常用入費ノ補ニ充テラレ得ベキモ  
 ノトス○但シ年ニ依リ「シヴナル」リストノ費額總テ四拾万磅ヲ超過シキハ其  
 度毎トニ其遣拂ノ計算書ニ充分ノ明細書ヲ添ヘ以テ之ヲ三十日間ニ議院  
 一差出スベキヲ定メ○女王ハ又「ラニカスター」ノ公同ノ收入ヲ受有スルヲ得  
 タリ此金額ハ千八百七十三年ニ於テハ（前年ヨリ千百拾貳磅ヲ減シテ）六  
 万四千五百三拾六磅ニ至リシモノナリ○右公同ニ就テ千八百七十三年ニ於テ  
 費シタル給料。法律手數料。租税。賑恤金。及ヒ其他ノ遣拂金ノ總額ハ  
 貳万三千五百三拾六磅ナリ而シテ同年中ニ女王陛下ノ納メ金ハ四万五千磅  
 ニシテ前年ヨリ増加スルヲ壹千磅ナリ又千八百六十六年ト千八百六十六

年ニ於テ女王陛下ニ納メタル金高ハ貳万九千磅ニシテ千八百六十八年  
 ニ於テハ其金高貳万七千八百八拾磅ナリ千八百六十九年ヨリ千八百七十  
 一年ニ至ル迄ハ其金高三万千磅ニシテ千八百七十二年ニ於テハ四万磅ナ  
 リ

